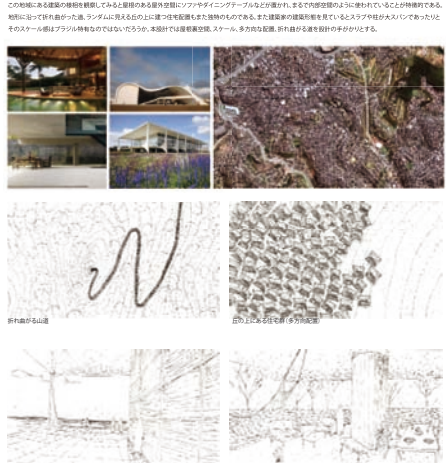
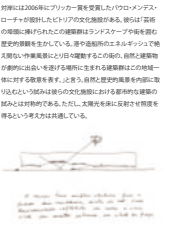
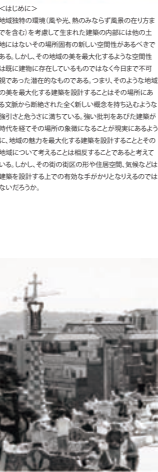
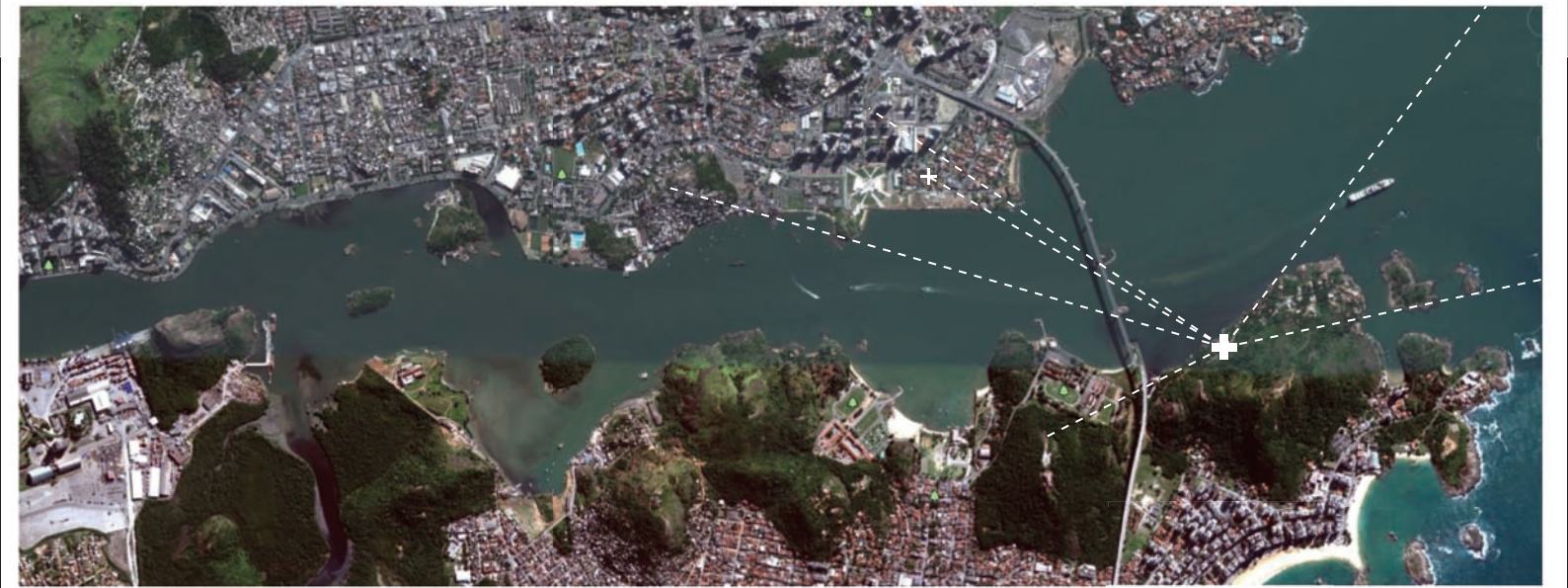
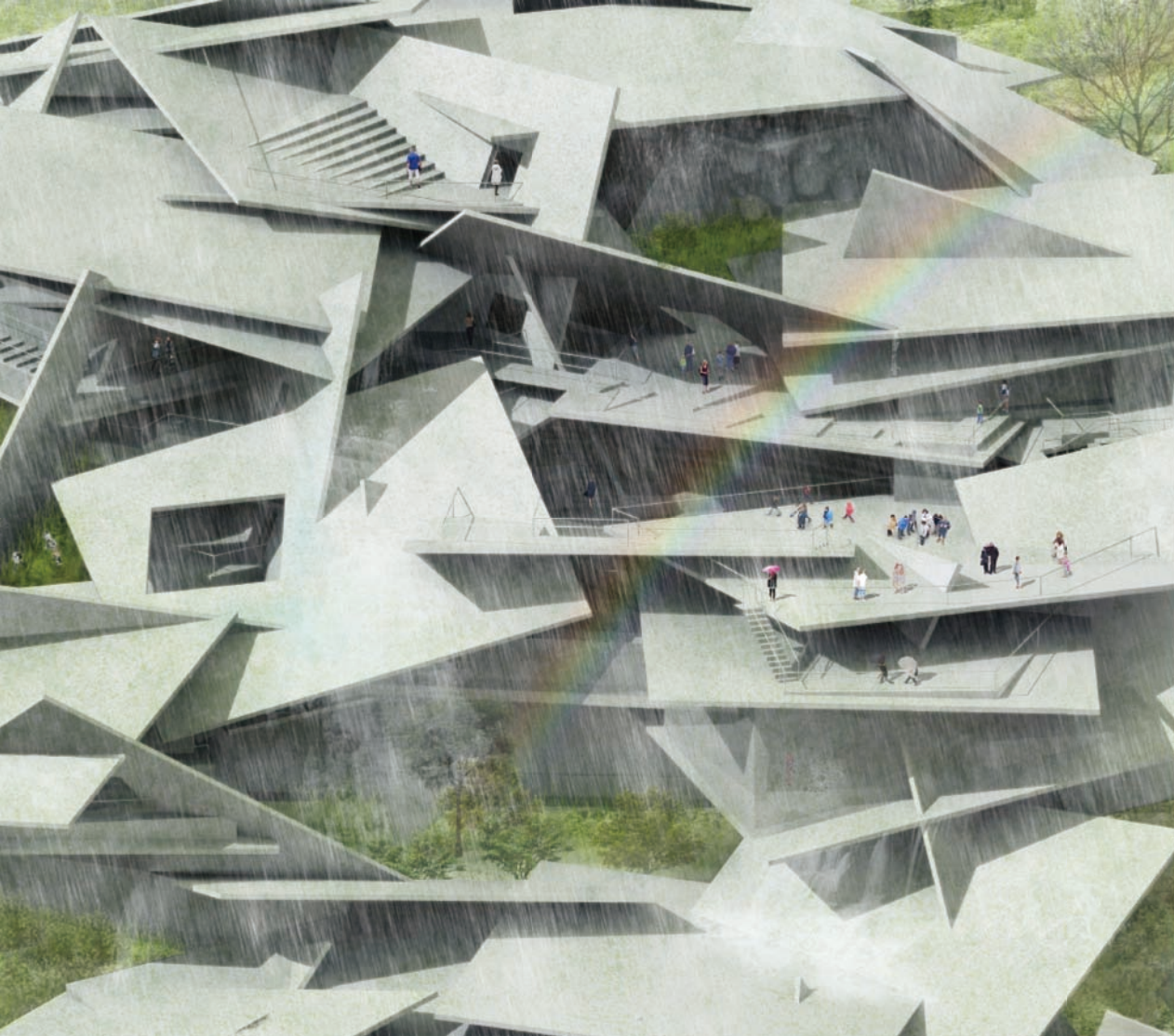


biblioteca da floresta



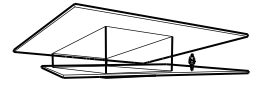
<敷地と環境>
敷地はリオデジャネイロから北に約100kmで、大西洋の海岸沿いに位置する。周囲には豊かな自然があり、山、大きな谷、起伏のある地形の上にある住宅地などがある。月間平均最高気温は30.4℃、月間平均最低気温は24.7℃で、10月から1月までの間は非常に暑い雨季である。昼間は海から吹く強い海風が吹き、夜間は山から吹く冷たい山風が吹く。敷地は海から吹く強い海風が吹き、夜間は山から吹く冷たい山風が吹く。敷地は海から吹く強い海風が吹き、夜間は山から吹く冷たい山風が吹く。

この敷地にある建物の設計は、周囲の自然環境と調和し、自然の美しさを引き出すことが目的である。建物の設計は、周囲の自然環境と調和し、自然の美しさを引き出すことが目的である。建物の設計は、周囲の自然環境と調和し、自然の美しさを引き出すことが目的である。

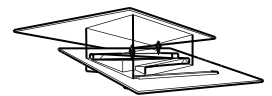


この建物は約20mの正方形の(10×20m) 地が組みあさることで成立している。この建物の連続したような空間を者の集合体でつくろうと考えた。風を内部に取り入れ、風量と対峙する空間を創出することで自然をつくり、雨を地面に返し、風を内部に取り入れ、風量と対峙する空間を創出する。自然が強く遠隔な場所であるため、コンクリートが汚くならないようにしている。また、人が入ることの出来ないこの空間は内部空間に取り入れるための風量と対峙する空間をコントロールする役割を果たす。柱、壁、床といった要素を分散せずに等価に扱うことでそれらは抽象化され、まるで自然の要素のように見える空間を創出する。また、自然の要素に、自然の要素によって生まれた自然の空間を創出するように利用者は移動し、好きな場所まで車を置くといったような空間体験を創出する。

コンセプトモデル



僅かな隙間から差し込む光が床と天井に反射し、エッジが消失する。



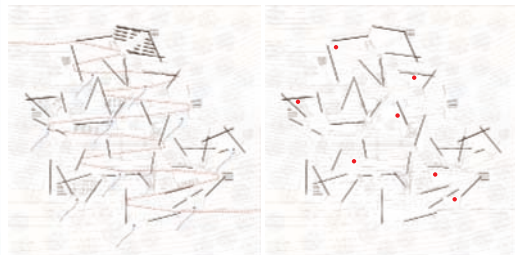
天井が床に隠れることで方向性のある広がり生まれている。

plan

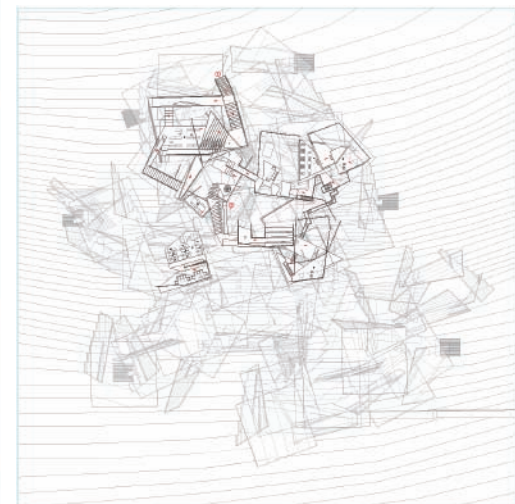
図書館における実用書や青年向けといった分野による分節は空間構造に適合される。またカウンターはエントランス付近に一つだけあるような旧来的な形式ではなく、二人を一単位とした小規模カウンターを分散的に配置することで大規模な建築空間の円滑的な管理を実現する。一般的な中央カウンターは職員と利用者を隔てる境界となってしまう。職員スペースには備品類が無造作に置かれたり、執務に不可欠な会話や電話の音が開架スペースに漏れだしてしまうことが多い。カウンターを事務スペースの延長でなく開架フロアの構成員として一角を占めることでサービスの向上となるのではないだろうか。

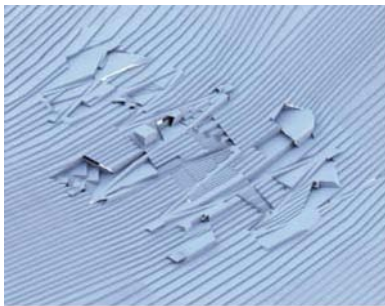


- 1- 一般開架 (実用書)
- 2- 一般開架 (新刊書)
- 3- カウンター
- 4- 青年
- 5- ポピュラー
- 6- 郷土資料
- 7- 読書スペース
- 8- 児童図書
- 9- 音楽資料
- 10- 自習室
- 11- インターネットコーナー
- 12- 情報コーナー
- 13- イベントホール
- 14- スポーツ
- 15- 更衣室
- 16- 談話コーナー
- 17- 新聞・雑誌
- 18- インフォメーション
- 19- 企画展示コーナー
- 20- レストラン

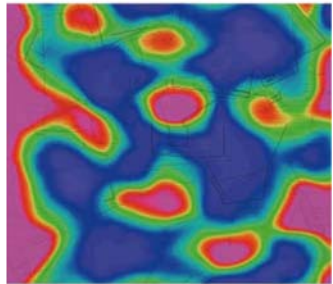


(左) 風の道と人の道 (右) 分散型カウンター





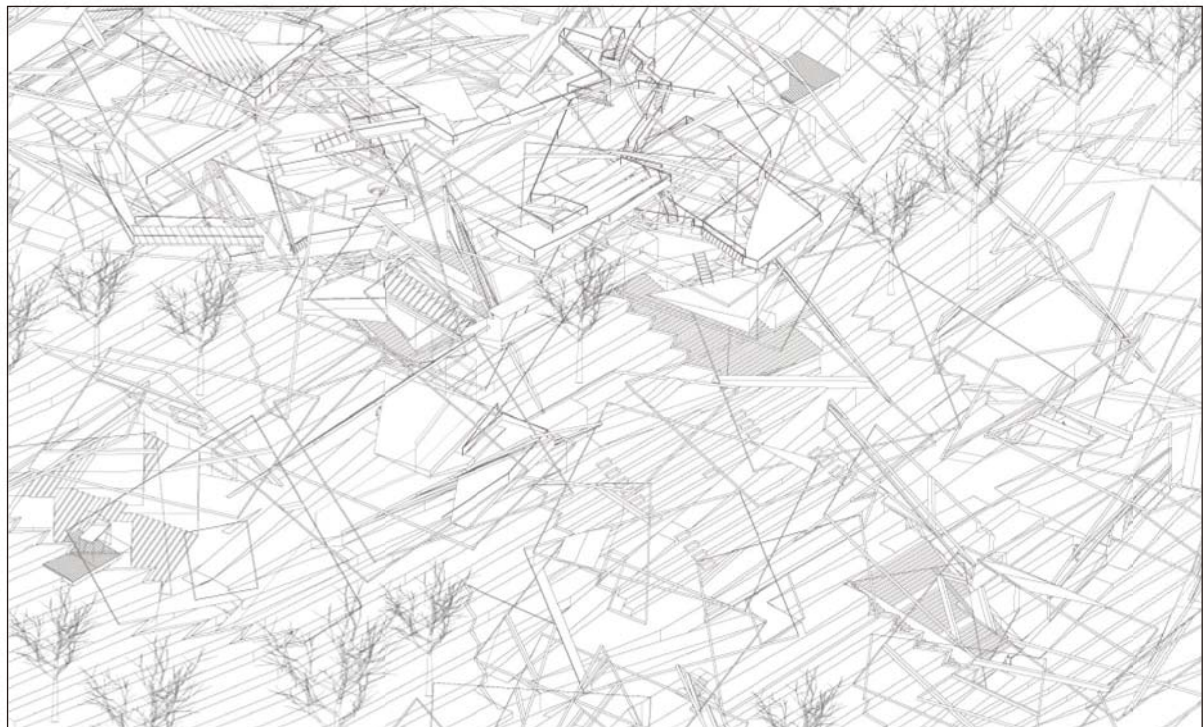
この地域は日差しが強いので、雲を二層構造とし雲の隙間に空気を暖めることで断熱をしている。ピンクの色が天井、青が屋根、緑が人の入るスペースである。



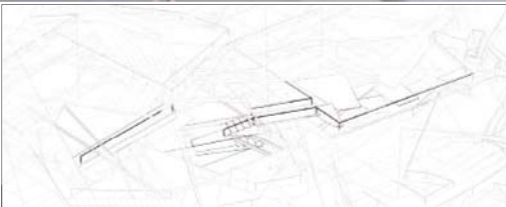
屋根の枚数が2枚以上ある場所を書く図示している。青い部分が居場所となり、赤い部分は外部空間となっている。



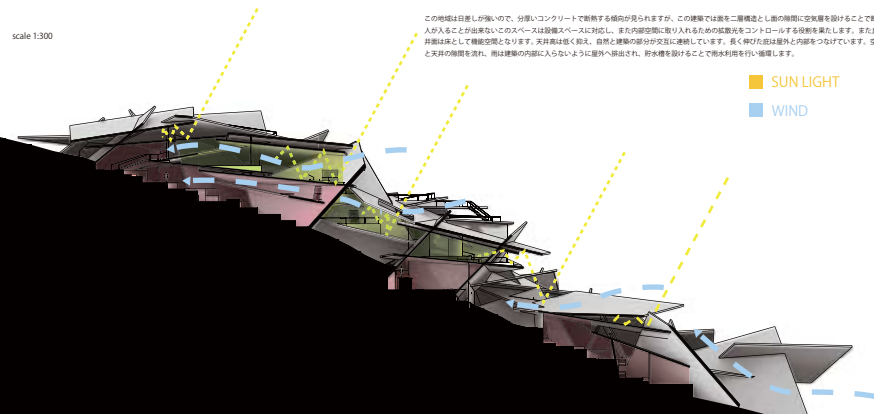
屋根面を流れる雨の方向を示している。雨の貯まる部分には貯水槽を設け、雨水利用を行う。



アクソメパース。建築と自然が入り交じるように広がっている。



scale 1:300



この地域は日差しが強いので、分厚いコンクリートで断熱する傾向が見られますが、この建物は窓を二重構造とし窓の隙間に空気層を設けることで断熱をしています。人が入ることになるこのスペースは暖房スペースに対応し、また内部空間に取り入れるための拡散光をコントロールする役割を果たします。また丘の上にある天井は窓として機能空間とつながります。天井高は低く掘上、自然と建物の部分が必要に応じて連続しています。長く伸びた庇は屋外と内部を分けています。空気の流れは屋根と天井の隙間を流れ、建物の内部から遠くまで自然と外へ排出され、排水溝の排水とで天井水は自然と排水溝へ逃げます。

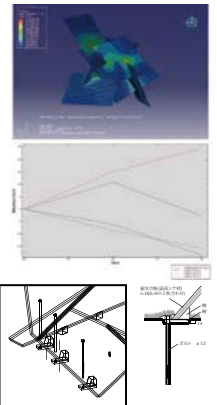
■ SUN LIGHT

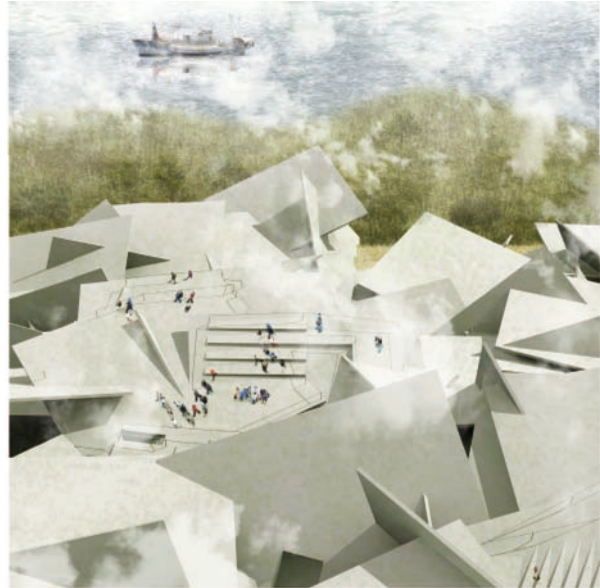
■ WIND



<構造>

去年同じような構成をしたアート作品を制作した。構造解析とモックアップを作成し、1200mm×1200mmの平面に対して厚みを18mmに決定した。この場合は足下をアンカーで固定することで地盤に設置しているが計画では土圧によって板が開く力を抑えている。材厚の寸法はこの作品を参照としている。





(上) 人の多い中央の部分は展望台であり、視線の面をなぞって等一歩な道となっている。(下) 丘の下から見上げの様子。



立派な 北側(上) 西側(下) いずれも幅100分の1。

